



Illustration: 小林 煌

PERMACULTURE CALENDAR 2018

permaculture

パーマカルチャーで「つながり」をデザインするということ
パーマカルチャー 2つの基盤

Observation

自然のシステムをよく観察するとともに、自分自身の生活パターンもよく観察します。

パーマカルチャー 3つの道徳

パーマカルチャーをデザイン、実践するにあたって基本となる価値観は次の3つ。

Appropriate Technology

伝統的な生活の知恵と、現代の科学技術の知識を融合させた、適正技術を活用します。

相互作用、関連性のある配置

パーマカルチャーの核心はデザイン（設計）です。デザインすべき構成要素*※をもっとも効率よく機能させるために、適材を適所に配置します。

*注 「構成要素」とは、家屋、鶏舎、森林、田畑、防風林、果樹、動物、人、微生物、昆虫など、わたしたちの生活を構成しているあらゆる要素をさしています。

複数のバックアップシステム

水、食料、エネルギー、防火など、生活の中で重要な基礎的需要は複数の方法で充たされるようデザインします。特にライフラインに関わるものは非常に重要です。

多機能性

システムの中のひとつひとつの構成要素は、できるだけ多く（3つ以上）の機能を持たせられるよう、選択や配置を考えます。

効率的なエネルギー計画

物や人の移動を効率的に、利用頻度を考えた区画の利用計画を考えます。

生物資源の活用

動植物の特性、風、重力などの自然の力に着目し、それを有効的に利用します。

Earth Care
地球への配慮
People Care
人への配慮
Fair Share
資源のわかち合い

エネルギーの循環 (Energy Cycling)

身近で無理なく調達できる資源を用い、また再利用するなど、小さなスペースの中でのエネルギー循環をデザインします。

植生の遷移と進化を促進 (Accelerating Succession and Evolution)

植生の自然な移り変わりに逆らわず、短い期間でわたしたちののぞむ植生への移り変わりを加速させるような環境条件をデザインします。

パーマカルチャーデザインの10の原則

場所を問わず、どんな気候にも、またどんな文化的条件にも適応する法則はこの10項目



多様性 (Diversity) の保全と活用

生物多様性の保護に重きをおきます。また、多様な動植物の特性を有効的に利用します（例：収穫期の異なる品種の導入により、長期収穫および病虫害や天候不順によるリスクを分散し、安定供給につなげます）。

接縁効果 (Edge Effects) の活用

異なる環境条件が出会う場所「エッジ（接縁部）」にあられる生産性の豊かさや多様性を、デザインの中に取り入れて有効的に利用します。

小規模集約システム (Small-scale Intensive System)

小さなスペースを生産性高く利用し、しっかり管理します。例えば、それぞれの植物の特性に従ってさまざまな種の植物を組み合わせるなど、植物を重層的に育てるようデザインします。また、前作が終わる前に次の作物をつくり始めるなど、時間も重層的にデザインします。

パーマカルチャーカレンダー 2018

パーマカルチャーカレンダーは参加型のカレンダーです。日本でパーマカルチャーの情報が少ない中、アイデアを共有する場として、実践者の方々のイラスト参加によりギフトエコロジーの精神で制作しています。

このカレンダーの趣旨

- Permaculture/ パーマカルチャー（活かし合う関係性のデザイン）の紹介。
- 日本での実践例、世界の日本人による実践例の情報の分かち合い。
- パーマカルチャーに関心を持つ人たちのつながりを紡ぐこと。

このカレンダーにおいても、パーマカルチャーの基本原則のひとつである「多機能性」を活かしたデザインを採用しています。

1 図案と絵画	日本国内において、パーマカルチャーデザインの分野で活躍されている方々やパーマカルチャーを実生活に取り入れている方々に有志にてご参加いただき、資料性の高い図案や絵画、またイラストで表現していただいております。
2 暦	ふだんわたしたちが用いているグレゴリオ暦を記載しました。
3 二十四節気	季節の移ろいをあらわすための区分です。1年を24等分に区切り、各節目の最初の日を名付けます。もともと中国の気候をもとに名付けられたので、日本の気候とは合わない名称や時期もあります。
4 月の満ち欠け	満月、上弦、新月、下弦を記しました。
5 潮汐	潮の満ち引き（満潮～干潮）の移ろいをグラフィカルに図案化しました。
6 種まきカレンダー	野菜の種まきの目安を記しました。平暖地を基準に表記しております。

参考資料 <パーマカルチャー 農的暮らしの永久デザイン> 農文協

製作・販売：パーマカルチャーリストネットワーク
このカレンダーに使用している「OK プリンス上質エコグリーン」は、再生紙です。上質ヴァージンパルプ20%と古紙80%で出来ています。また、環境にやさしい植物性油を含んだインキを使用しています。

表紙イラスト：小林 煌（こばやし・こう）
『まぐ愛』2016

この星に、いまこの時に、やって来たい光たちよ！みんなおいで！
あたらしい命を愛の間に迎えることを夢見るすべてのひとたちに祝福あれ！
光たちおいで！光たちおいで！と、祈り込め彫りました。
いのち産むお護りになったら嬉しいです。
手をつなぎ、抱き合い、キスをしよう！
愛し、愛され、愛し合いましょう。いのちを触れ合わせながら。
1979年東京生まれ。
八ヶ岳の麓にて自分たちでリフォームした旧工場をアトリエ&住まい&ギャラリーとし小さな田畑をしながら画家の夫古川卓と二人の娘そわかと愛実、犬のきなことともに暮らす。
自分の真ん中が全てのいのちとつながっていることを信じて作品を産んでいる。
わたしたちは光。光り愛い、響き愛って生きている。今、ここ、出会える奇跡にありがとう！
<http://kiramekou.com>

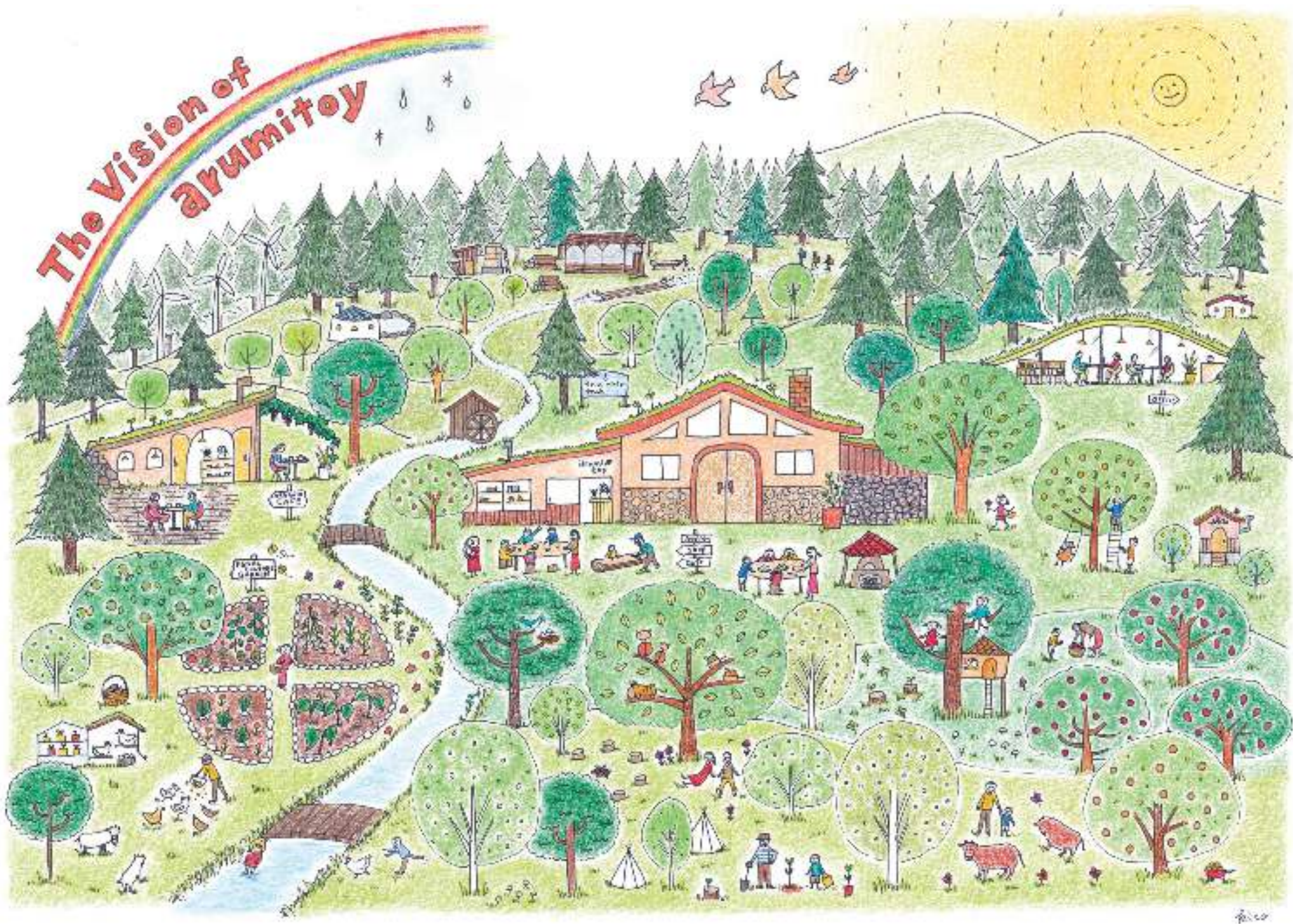
表紙題字・パーマカルチャー基本と原則 デザイン：KUJIKI
南房総の海と土のある暮らしの中で取り戻すことのできるシンプリシティへの憧懷をときにデザインで、またあるときは文章で綴っています。<http://kujika.jp>

プロデュース：平田理子（ひらた・りこ）
“全ての命は等しく尊い”という思いを胸に、パーマカルチャーリストネットワークの主宰及び非暴力教育に携わる（カリフォルニア州認定カウンセラー）

Webデザイン：山下道生（やました・みちお）

デザイン：畑中 亨（はたなか・とおる）

* 無断複製、および転載はご遠慮ください。



100年後の未来の子ども達へ、豊かな森を。

京都と奈良の境目、木津川市加茂町。田んぼと畑とお茶畑に囲まれた、築100年の古民家がarumitoyの店舗兼アトリエです。arumitoyを営む木のおもちゃ作家多胡歩未さんは、「子どもたちの笑顔が見たい」という思いを胸に、単身ドイツにておもちゃ作りの技術を学び、2004年にarumitoyをオープンし

ました。現在arumitoyは、100年後の未来の子ども達へ、豊かな森をのこすことをビジョンとして掲げています。この絵は、「arumitoyが思い描く森」を、パーマカルチャーの手法を使った想定で描きました。

<https://arumitoy.net/>

kicodesign(田内亜紀子)★1999年日本大学芸術学部卒業後、広告制作会社に勤務。2006年から1年間ニュージーランドでパーマカルチャーを学ぶ。同年Rainbow Valley FarmにてPermaculture Design Course修了。帰国後、フリーランスのグラフィックデザイナーとしてkicodesignを開始し、現在は京都を拠点に、地域に根ざした活動を行なう。ナチュラルであたたかみのあるデザインとイラストを得意とし、飲食店や美容室などの店舗のロゴ・パンフレット、商品パッケージ、イラストなどの制作を幅広く手がける。
www.kicodesign.com

1

2018

2

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
31	1 元日	2	3	4	5 小寒	6
7	8 成人の日	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20 大寒
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
28	29	30	31	1	2	3 節分
4 立春	5	6	7	8	9	10
11 建国記念日	12 振替休日	13	14	15	16	17
18	19 雨水	20	21	22	23	24
25	26	27	28	1	2	3

種まきの目安〔平暖地〕

中旬 ジャガイモ(植付け)

下旬 ジャガイモ(植付け)

食べられる庭・edible garden

bija



食べられる庭・edible garden bija

シャロムヒュッテの畑の一角につくられた「食べられる庭・edible garden bija」。2017年度の塾生が、ゾーン、セクターなどパーマカルチャーのデザイン手法をもとに土地や周りとの関係を観察し、パーマカルチャーの倫理・原則を意識しながらデザインしました。「bija」と

はサンスクリット語で「種」。訪れる人たちにパーマカルチャーを知ってもらふ庭、いずれ森へと成長していく庭、たくさんの可能性に満ちた「種」を蒔く庭です。

原画：西尾元（2017年度塾生）

安曇野パーマカルチャー塾★長野県安曇野にあるシャロムヒュッテを会場に、毎年3月から11月までの9ヶ月間、月に一度の合宿スタイルで開催。パーマカルチャーをベースにしながら、衣食住、暮らしや生き方に関わる講義、実習により、身体知を使って感じ学ぶことを通し、自然と人と共生する、持続可能なライフスタイルを創り上げる力と仲間を作り、自分の暮らしから社会を変革することのできる個人を育む場です。2018年度はガーデン小屋を作る予定。

<http://www.ultraman.gr.jp/perma/>

3

2018

4

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
25	26	27	28	1	2	3 桃の節句
4	5	6 啓蟄	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18 彼岸入り	19	20	21 春分 春分の日	22	23	24 彼岸明け
25	26	27	28	29	30	31

種まきの目安 [平暖地]
 上旬 ジャガイモ(植付け)、ニンジン、ダイコン、コマツナ
 中下旬 ニンジン、レタス、サラダ菜、サンチュ、シュンギク、ミツバ、小カブ、ミズナ、コマツナ、西洋ホウレンソウ、ゴボウ、ネギ、トマト(温)、ピーマン(温)、ナス(温)、スイカ(温)、メロン(温)

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5 清明	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20 穀雨	21
22	23	24	25	26	27	28
29 昭和の日	30 振替休日	1	2	3	4	5

種まきの目安 [平暖地]
 上旬 レタス、サラダ菜、サンチュ、シュンギク、コマツナ、キュウリ、カボチャ、ズッキーニ、アスパラ、シソ、サトイモ(植付け)、ヤマイモ(植付け)
 中下旬 サラダ菜、サンチュ、シュンギク、カボチャ、ズッキーニ、ゴーヤ、シソ、トウモロコシ、ショウガ(植付け)、エダマメ、インゲンマメ、トマト



To Eat You

モグルのが好きです。目にうつるもの、イロイロ、さまざま、ヒの光りにキラキラして、もーパラダイスです。時にモーゼンととつかまえて食べてしま

います。生き物ですから。この頃は、のんびり浮かんで、浅瀬の小さなヒトたちを見ながら、泳ぎまわるだけで、おおよそ満足です。

平島平太★1961年三重県生まれ 6歳から東京、杉並、善福寺公園でザリガニなど取る。大学中退後、インド、ネパール。パキスタン、タイなど旅 / 25歳 伊豆半島の先っぽに流れ着く。畑、子供、小屋、土方、魚市場、素潜り、波遊び / 35歳 いろいろあって絵を描きだす。 / 40歳 山仕事始める。 / この頃は、荒れはてた森のお手入れの仕事しながら、小屋を作ったり、畑したり、絵も描いたりしている。
著書：2001年『サンシャインなくらし』（自費出版） 2005年『チャイくんはいく』（福音館書店）
HP <http://orange.zero.jp/heita777.boat/>

7

2018

8

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2 半夏生	3	4	5	6	7 小暑 七夕
8	9	10	11	12	13	14
15	16 海の日	17	18	19	20 土用の入り	21
22	23 大暑	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

種まきの目安〔平暖地〕

上中旬 サラダ菜、サンチュ、ニンジン、ソバ、ダイズ

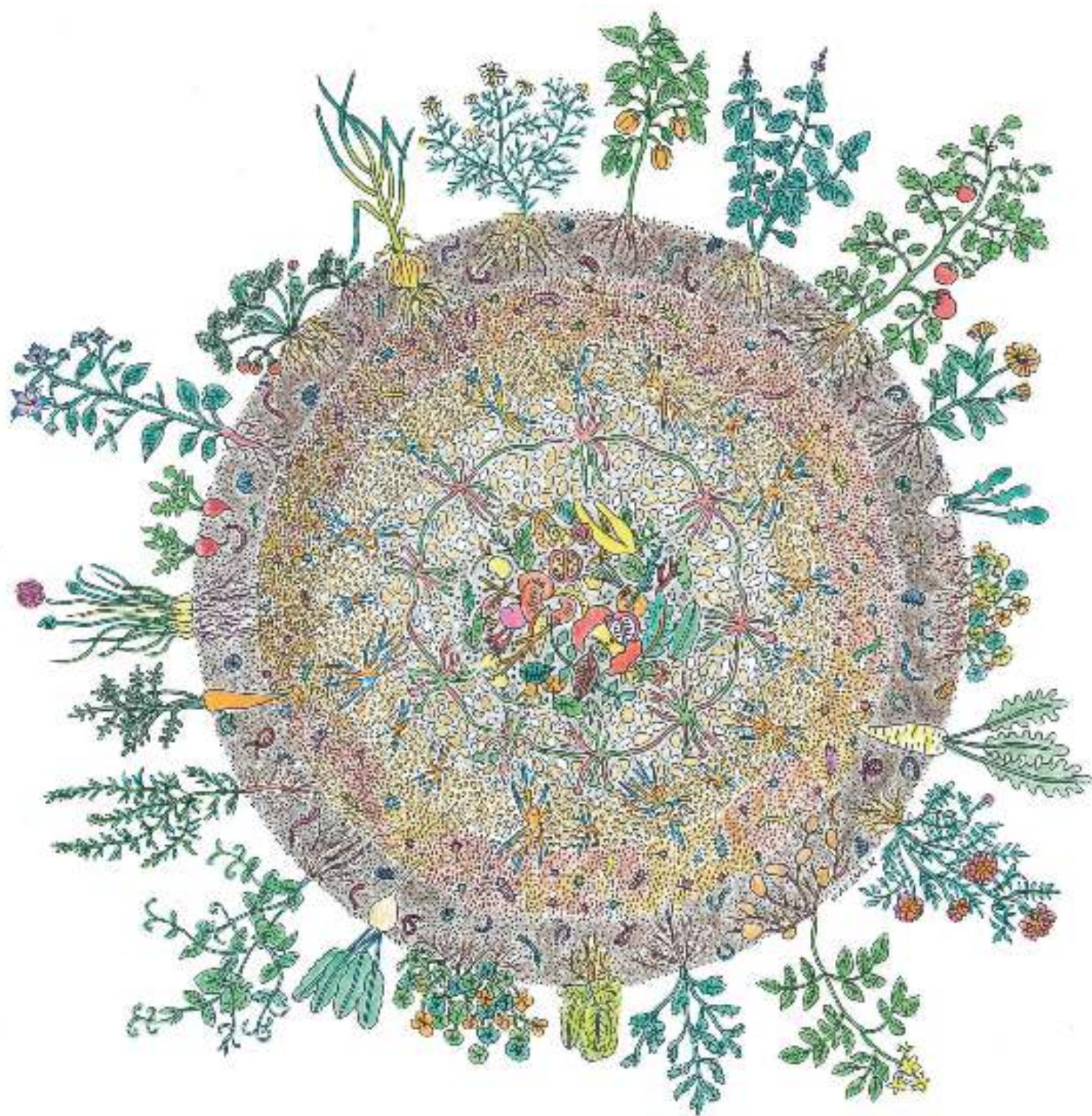
下旬 サラダ菜、サンチュ、ニンジン、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワー

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7 立秋	8	9	10	11 山の日
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23 処暑	24	25
26	27	28	29	30	31	1

種まきの目安〔平暖地〕

上旬 キャベツ、ブロッコリー、カリフラワー

中下旬 サラダ菜、サンチュ、ハクサイ、ニンジン、ソバ、ワケギ、ショウゴインダイコン、イチゴ（仮植え）、ネギ



Compost 曼荼羅

Compost（コンポスト）とは、微生物によって有機物を完全に分解したもので、日本語では堆肥を意味する。家庭から出る生ゴミが、いつの間にか、ふかふかな土になっているのはどうしてだろう。その秘密は微生物の働きだと知った時、とても感動し、私たちの見えない世界で繰り上げられる命のバトンリレーを曼荼羅で表現しました。生ゴミからおいしい野菜たちへ、そして私たちへ繋がるようす、よければじっと見つめてみてください。

【曼荼羅解説】真ん中から①生ゴミ→②まずはじめに活躍するのが糸状菌(カビ)→③そして放線菌へパトンタッチ→④細菌(バクテリア) 現る→⑤完成した堆肥にはミズやトビムシなど現れる→おいしい野菜が育つ。生ゴミは「ゴミ」じゃなくて宝物ですね。

川村若菜(wakanakawamura)★パーマカルチャーデザイナー＆イラストレーター。2008年、アメリカ西海岸に単身飛び出す。気づけば植物のトリコになり、造園学科で植物学＆デザインを学んでいる中、パーマカルチャーと出会う。サンフランシスコにあるUrban Permaculture Instituteで、都会を中心としたアーバンパーマカルチャーを学んだ後、トランジションタウンやコミュニティーガーデンに携わる。2016年日本に帰国後、パーマカルチャー造園集団・Permaculture Design Labに所属しながら、日々の暮らしを探究中。盆踊りとお料理、そして目に見えないものを描くことが好き。

<https://www.permaculturedesignlab.com>

9

2018

10

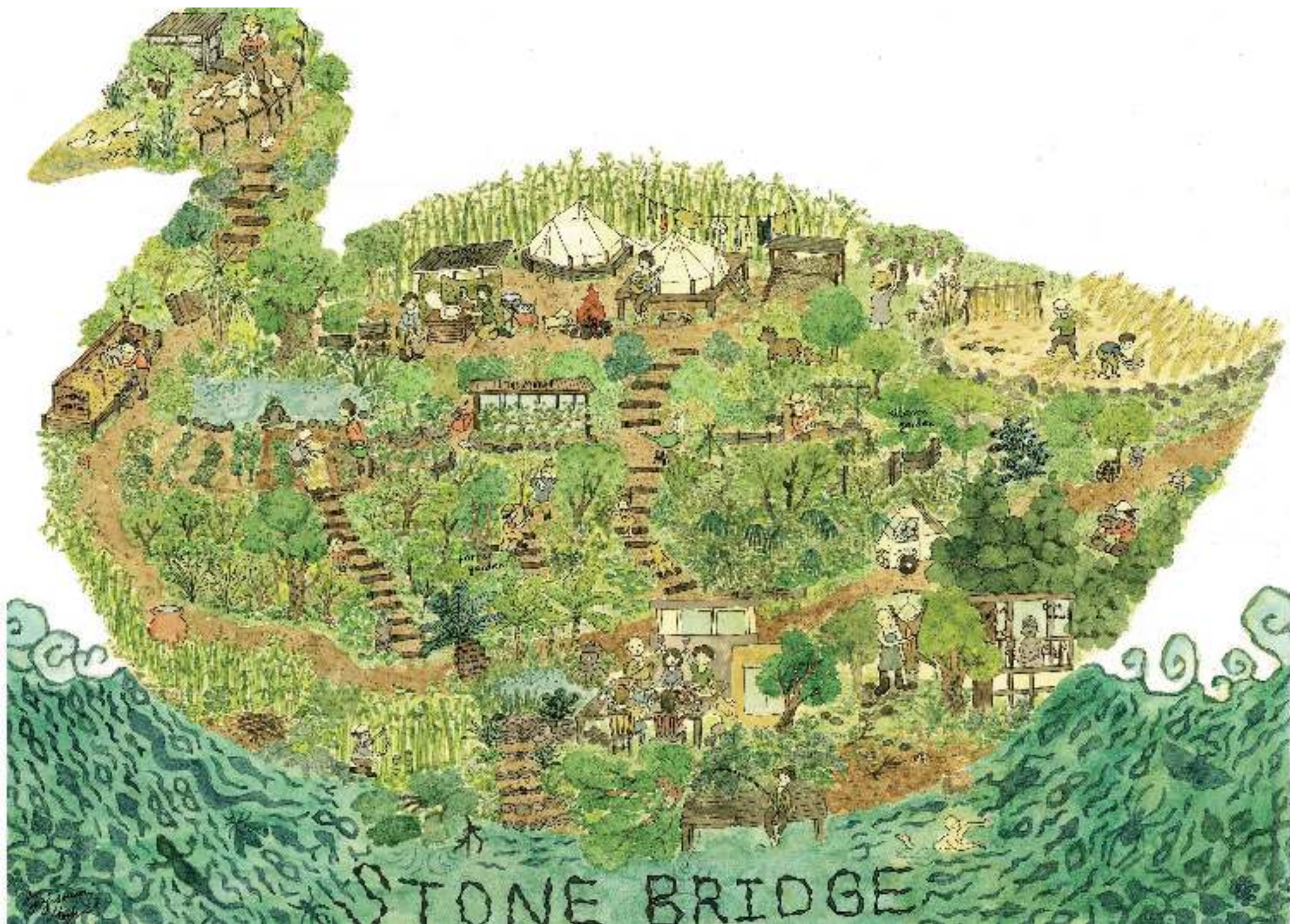
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
26	27	28	29	30	31	1 二百十日 白露
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17 敬老の日	18	19	20 彼岸入り	21	22
23 秋分	24 振替休日 十五夜	25	26 彼岸明け	27	28	29
30	種まきの目安 〔平暖地〕 上中下旬 下旬					

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
30	1	2	3	4	5	6
7	8 寒露 体育の日	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21 十三夜	22	23 霜降	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

種まきの目安

上旬 西洋ホウレンソウ、ニンニク(植付け)、シュンギク、ナバナ、コウサイタイ、ミズナ、コマツナ、チンゲンサイ

中旬 スナッペンエンドウ、グリーンピース、レンゲ、タマネギ(植付け)



鴨川なる STONEBRIDGE

インターン生として滞在している、千葉県鴨川市にある STONEBRIDGE のフォレストガーデンを描きました。散歩をしていた時に、土地がカモの形に似ているように思い、STONEBRIDGE をカモに見立て、生命であふれる川に浮かべて“鴨川”を表現しています。

ガーデン作業、コンポストトイレ作り、カモの世話などインターン中の暮らしや、ここで働く人、ものたちを描きました。ゾーンごとの雰囲気や植物の違いを意識して描いたので、そこに注目して見てもらえると嬉しいです。

藤澤菜由 (ふじさわ・まゆ) ★1994年11月25日生まれで滋賀県出身。2017年3月に三重大学生物資源学部を卒業。現在はWoofやインターンで自給的な暮らしの知恵を学びながら、フリーでイラストレーターの仕事をしています。絵になるような魅力的な社会や生き方していきたいという思いで、自然や出会った方々の暮らしに影響を受けながら自分の理想の世界を描いています。自然と共にある暮らしを遊びながら、おもしろいことに気付いたり、作品を作ったりして、自分の道を極めていきたいです。好きなことはもの思いにふけること、特技は捕らぬ狸の皮算用です。

11

2018

12

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
28	29	30	31	1	2	3 文化の日
4	5	6	7 立冬	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22 小雪	23 勤労感謝の日	24
25	26	27	28	29	30	1

種まきの目安
[平暖地]
上旬 スナップエンドウ、キヌサヤ、グリーンピース、ソラマメ、タマネギ(植付け)、アスパラガス(株分け)、レンゲ
中旬 小麦、大麦
下旬 小麦

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4	5	6	7 大雪	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22 冬至
23 天皇誕生日	24 振替休日	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5